

令和3年度 多摩市立連光寺小学校 学校評価書

学校教育目標	
◎ 考えてやりぬく子 ○ 明るく思いやりのある子 ○ たくましくじょうぶな子	
目指す学校像(学校経営ビジョン)	
(1)児童にとって、自己の成長が実感できる学校 (2)保護者・地域の方にとって、安全・安心で信頼できる学校 (3)教職員にとって、やりがいをもって協働できる学校	
目指す子供像	目指す教師像
(1)主体的に学びに向かい、学んだ知識を持続可能な社会づくりに生かす児童 (2)思いやりと社会性を持ち、実践できる児童 (3)自己防衛力を持ち、心身の健康増進に努める児童	(1)SDGs 達成に向けた児童の人材育成を図る教師 (2)児童理解を基に、家庭や地域と連携して、誰もが生き生きと生活する社会の実現を図る教師 (3)困難に立ち向かい、克服していく教師

Ⅰ 自己評価結果と学校関係者評価の状況

(1) 確かな学力の育成

重点目標	① 学びに向かう学習意欲の向上 ② 基礎学力の定着 ③ ESDの推進による人材育成と情報教育の活用			
評価項目 (目標とする成果・指標%)	自己評価		学校関係者評価	
	評語	現状の分析と改善策	評語	学校運営連絡協議会委員の意見
交換授業、自主学習、外部指導者の活用、学習の客観的振り返りによる学習意欲向上	4	・自主学習は進んで取り組む児童が増えた。継続する。 ・外部指導者も多く招聘した。	B	・自主学習は「今」効果が出るものではないですが、将来を見据えた良い取り組みである。 ・校外活動が制限される中で工夫し実施していた。 ・環境に取り組んでいることが児童からわかる。 ・外国の文化に親しむ機会が欲しい。
学力向上委員会による学力分析と指導内容の共有・実践 児童評価 90%	3	・教員の指導方法の共有に効果があった。継続課題。 ・児童評価 79%。	B	
地域環境資源の再構築とe-ポートフォリオの活用による ESDの実践と成果検証 教員評価 90%	4	・3,5年生の総合のカリキュラムを検討委員会にて改定した。 ・e-ポートフォリオは常態化。 ・教員評価 89%。	B	
評価のまとめ	・交換授業は、教材研究の効率化と授業力の研鑽に効果があった。継続する。 ・自主学習は全体に定着するとともに、学習意欲が増した児童も見られた。自主的・主体的な学習にもつながるため継続する。 ・基礎的な学力の向上を児童自身が実感できる指導方法の工夫が必要。 ・e-ポートフォリオの活用により、児童の学習活動の成果が効率的に生かせるようになり、客観的に学習成果をメタ認知できた。			

【評語について】

自己評価			学校関係者評価	
評語	達成状況	成果指標	評語	自己評価の適切さ
4	申し分なく達成した	90%以上～100%	A	適切である
3	おおむね達成した	70%以上～90%未満	B	おおむね適切である
2	やや下回った	40%以上～70%未満	C	適切でない
1	大きく下回った	40%未満	D	評価は困難である

(2) 豊かな心の育成

重点目標	① 基本的な生活習慣の確立 ② 道徳科の授業力向上といじめの防止 ③ 他者との関わりをもとにした自尊感情、人権意識の向上			
評価項目 (目標とする成果・指標 %)	自己評価		学校関係者評価	
	評語	現状の分析と改善策	評語	学校運営連絡協議会委員の意見
あいさつ、言葉遣い、廊下歩行の基本的な生活習慣の徹底 教員評価 80%	3	・基本的な生活習慣は廊下歩行が課題。継続指導していく。 ・教員評価 75%。	B	・子供たちも教職員も、しっかりとあいさつできる。 ・いじめの芽を摘むように子供に対して丁寧に関わっている。 ・コロナ禍で外部と協力することが難しいが、交流活動を工夫していた。 ・特別支援児に、それぞれの児童に適した関わりをしている。
児童が教育活動を振り返ることのできる道徳科の授業の充実といじめを生まない集団の構築 児童評価 85%	3	・対話的な道徳科授業の実践は十分にはできていない。 ・いじめ早期発見のアンケート等は有効に活用できた。 ・児童評価 93%。	A	
異学年・地域・特別支援教室との交流活動による豊かな心の育成	2	・活動が難しかった。 ・都立桜の丘学園とはオンライン交流を行うことができた。	C	
評価のまとめ	・基本的な生活習慣の徹底について年間指導計画に基づき実行していく。 ・道徳科の授業力向上を図るため、若手研修会等を活用して、実践的な研鑽をするとともに、成果を授業観察で確認する。 ・いじめ早期発見について、今年度の組織体系を継続して実施していく。 ・交流活動は、オンラインを積極的に活用して実施できる方策を探る。また、来校していただき実施できるプログラムも積極的に検討する。			

(3) 健やかな体の育成

重点目標	① 自己防衛力の育成 ② 心と体の健康指導の充実 ③ 運動に親しむ資質・能力の育成			
評価項目 (目標とする成果・指標 %)	自己評価		学校関係者評価	
	評語	現状の分析と改善策	評語	学校運営連絡協議会委員の意見
不審者、交通事故、スマホ・ゲーム依存からの自己防衛力を高める教育活動の推進 保護者評価 90%	3	・予防対策としての取り組みは実施できた。 ・交通事故について継続取組。 ・保護者評価 90%。	B	・今後も計画に基づいて推進してほしい。 ・安心・安全に関して、学校任せにしている保護者がいるのではと気になる。 ・ヘルメットは装着率が増えた。 ・自分自身と向き合う活動を今後も続けてほしい。 ・オリパラはコロナ禍で難しかったと思うが、いろいろ考えていてよい。
心身の調和がとれた、行事に取り組む姿勢の強化とフィードバックによるくじけない心の育成 児童評価 90%	3	・限定的な行事であったが、取り組みの工夫を重ねて成就感を味わわせた。道徳科でのフィードバックを重視する。 ・児童評価 87%。	B	
オリパラ教育の推進による、運動への意欲向上とボランティア・マインドの醸成	2	・環境に特化した自然保護の取り組みは実施できたが、オリンピックの招聘はできなかった。	C	
評価のまとめ	・交通安全については最重要課題として、あらゆる手立てを活用して自己防衛力を高める学習活動を継続する。 ・コロナ禍における行事の実施方法の目途がついてきたため、行程を予想した取り組みと振り返りを着実に実行し、くじけない心を育成する。 ・オリパラレガシーとしての環境保護の取り組みは、ホールスクールアプローチで「総合的な学習の時間」を中心に進めていく。 ・キャリア教育としてのオリンピックの招聘に引き続き取り組む。			

(4) 家庭や地域との連携

重点目標	① 徹底した情報公開による教育活動への協力 ② コミュニティ・スクールの実施 ③ 学校地域協働本部による活動		
評価項目	自己評価		学校関係者評価
	評語	現状の分析と改善策	評語 学校運営連絡協議会委員の意見
学校だより、HP、配信メールを活用した徹底した情報共有と教育活動への理解・協働 保護者評価 90%	4	・HPは 1 月末までに 299 回更新。地域・保護者の理解が深まり、大変効果的であった。 ・保護者評価 97%。	A ・HPの活用により、学校の様子がリアルタイムにわかり非常に有効である。 ・学校に行かなくても様子や雰囲気がよく分かった。可視化された。 ・学校・家庭・地域の連携がよく取れている。
コミュニティ・スクールの実施による地域協力者の再構築 学校運営協議会評価 90%	2	・地域協力者の連絡・相談はできたが、活動の実行には余地あり。評価 83%。	B
放課後子ども教室、地域未来塾の再構築、及び実施	2	・放課後子ども教室はできなかった。 ・地域未来塾は一新し再開。	C
評価のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・情報発信により教育活動を有効に実施することが可能となった。保護者・地域への情報公開をできるだけ行う姿勢を継続する。 ・学校運営協議会からの提案を引き出すとともに、地域が学校と協働できる場の工夫を重ねることで、さらにコミュニティ・スクールを活性化していく。 ・放課後子ども教室について、感染状況が落ち着いている時期にスピード感をもって実施できるよう、準備を整えておく。 		

2 次年度に向けた学校経営の方向性、課題等

<p>【考えてやりぬく子の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域未来塾、自主学習、交換授業、若手研修会(道徳)、ICT機器の活用(オンライン学習、e-ポートフォリオ)を継続しさらに加速させることで、児童の学習意欲の向上と教員の授業力向上を相乗的に図ることで、児童の基礎的学力と応用力を向上させる。 ・地域と強くつながった教育活動が本校の特色である。3, 5年生では「総合的な学習の時間」のプログラムを再編したが、その実施とともに、各学年の活動を見直しつつ、ニューノーマルな形での地域環境資源の活用実践を積み重ねていくことで、ESDの実践を継続させる。 <p>【明るく思いやりのある子の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍における教育活動の実施方法を工夫することで、スタンダードな授業方法や行事の実施方法を確立することができた。次年度はその知見を生かし、児童に寄り添った視点での方法をさらに洗練させていくことで、児童の成就感、自己肯定感、自己有用感につながる成果を出していく。 <p>【たくましくじょうぶな子の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的生活習慣の習得と交通安全等の自己防衛力の向上は、学校・地域・保護者が連帯して意識し指導を重ねることが不可欠である。情報発信を有効活用しながら、子供を守るためのあらゆる手立てを今後も継続して講じていく。

以上のとおり報告いたします。

令和4年3月1日

多摩市立連光寺小学校 校長 関口 寿也

公印

令和3年度 学校評価書



多摩市立連光寺小学校